

## 生命科学・医学系研究に関するお知らせ

熊本大学病院腎臓内科では、患者さんの試料・情報を用いた以下の研究を実施しております。医療を進歩・発展させ、効果的で安全な医療を提供するため、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

なお、この研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用されることについて、ご了承いただけない場合には、以下の問い合わせ先にお申し出いただきますようお願いいたします。お申し出になられた場合でも、患者さんがいかなる不利益も受けることはございませんので、ご安心ください。

### ■ 研究名称

がん・自己免疫疾患・アレルギー疾患治療における血中及び尿中必須アミノ酸輸送体、LAT1 mRNA 発現強度による病勢の探索研究

### ■ 研究責任者

研究代表者

相模原赤十字病院 腎臓内科

野々口 博史

当施設における研究責任者

熊本大学大学院生命科学研究部腎臓内科学講座

泉 裕一郎

### ■ 研究目的・方法

がんは若年者から高齢者まで、広く認められる疾患の一つです。日本人の約2人に一人はがんに罹患し、約3人に一人はがんによって亡くなっています。そのため、がんの早期診断・早期治療が求められています。

がん組織の増殖には、大量の必須アミノ酸が必要です。私たちは、この必須アミノ酸の運び手として LAT1 と LAT2 の分子を同定しました。中でも LAT1 はヒトのがん組織での発現が強く、LAT1 の発現が強くなるほど致死性も上がります。すでに、LAT1 を阻害するお薬によって、がん組織の増殖が抑えられることが確認されています。LAT1 の抗体染色は、がんの病理診断に頻用されていますが、組織を採取できるのは原則一度きりであり、継続して LAT1 を確認し、早期診断に使用することは極めて難しいのが現状です。

そこで、私たちは LAT1 に先行して発現する LAT1 遺伝子 (LAT1 mRNA) に注目しました。LAT1 遺伝子 (LAT1 mRNA) を、採取の侵襲性が少なく、繰り返し採取できる血液や尿から分離し、発現量とがんの状態との関連性を明らかにすることで、がんの状態を評価する新たな方法としての活用を考えています。

この研究では、がんだけではなく、自己免疫疾患（関節リウマチ、全身性硬化症、全身性エリテマトーデス）、アレルギー疾患（気管支喘息、アトピー性疾患）の状態と LAT1 遺伝子 (LAT1 mRNA) の関連性を明らかにしたいと考えています。

**■ 研究期間**

2025年5月15日～2027年12月31日

**■ 研究の対象となる方**

2024年7月25日以降に当院のバイオバンクへ血液検体を提供いただいた患者さん

**■ 研究に利用する試料・情報**

試料：採血の過程で得られた検体（残余検体）

情報：上記期間中に診療記録に記録された情報（疾患名、関連する腫瘍マーカー値、自己抗体値、アレルギー検査値など）

**■ 他の機関への試料・情報の提供**

データ解析のために以下の情報を共同研究機関へ提供します。患者さんを直接特定できないように加工し、記録媒体にパスワード保護したうえで共同研究機関へ郵送します。

**[提供する試料・情報]**

血液・診療記録に記録された情報（疾患名、関連する腫瘍マーカー値、自己抗体値、アレルギー検査値など）

**[提供元の機関]**

熊本大学病院 病院長 平井俊範

**[提供先の機関]**

相模原赤十字病院 研究責任者 野々口博史

北里大学メディカルセンター 研究責任者 野々口博史

北里大学医学部 研究責任者 安岡有紀子

**■ 個人情報の保護**

研究に利用する情報は、患者さんを直接特定できる氏名や住所等を削除し、研究用の番号を付けて利用します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

**■ 利益相反について**

本研究は、(株)トランスポーターから資金提供を受けて実施しますが、(株)トランスポーターは研究の計画、実施、解析、発表に一切関与しません。利益相反の状況については、相模原赤十字病院利益相反委員会に事前に申告し、そのマネジメントを受けて適切に管理、開示します。

**■ 試料・情報の管理責任者**

■ 熊本大学病院 病院長 平井俊範

**■ お問い合わせ先**

熊本大学大学院生命科学部 腎臓内科学講座  
泉 裕一郎 (イズミ ユウイチロウ)  
電話：096-373-5164

以 上